

編集後記

「お互いにつながって生きる」こととピア・サポート

2011年3月11日、東日本大震災における大津波と原子力発電所過酷事故という未曾有の出来事によって、多くのかけがえのない人々のいのちと生活が奪われ、復興に向けた取り組みが続いています。本学会では、研修委員会を中心に、具体的な学校支援プログラムを提供できないか検討し、幼稚園・保育園から高校までを対象とするピア・サポート支援プログラムと、教師支援プログラムを策定し提供してきました（学会ホームページ参照）。

東日本大震災は、日本国内にとどまらず、人類的な課題を私たちに提起してきました。例えば、これまで利便性や効率性を追求してきた人間のあり方が、地球に大きな負荷をかけてきたのではないかということ。この視点から、持続可能な地球と人類との関係を軸に置きながら、私たちの人生観、世界観、日常生活のあり方を問い直していくことが、求められているのではないのでしょうか。

同時に、日本国内にとどまらず、世界的な支援の輪が広がっているという事実は、深刻な危機にあっても人々は、人間、自然、文化と「お互いにつながって生きる」ことによって励まし合い、復興と未来創造を成し遂げていくという姿を示しているのではないのでしょうか。そのつながりは、家族、友人、地域から、国内、世界に広がっています。つながって生きていると実感できることは、支援を行う側と受ける側の立場を超えて、お互いの出会いと存在が、生きる励みになるような関係になっているということです。

「お互いにつながって生きる」ことは、日本ピア・サポート研究会から日本ピア・サポート学会へと引きつがれ、この10年間私たちが大切にしてきたことでもあります。その間、毎年行ってきたアメリカ、カナダ、イギリス、香港などへのピア・サポートやスクールカウンセリングの海外研修を通して、海外におけるピア・サポートの実践、研究を学んできました。

同時に、条件が異なる日本の学校や地域で、ピア・サポートをどのように展開していけるのか、試行錯誤の10年間でもありました。ピア・サポーターを養成するための「ピア・トレーナー」、ピア・トレーナーを養成するための「ピア・コーディネーター」という資格認定制度も設けてきました。その間、会員の皆さんの地道で真摯な取り組みによって、ピア・サポートの実践、研究は蓄積され、裾野を広げてきました。今回、学会創設10周年を機に、日本におけるこれまでのピア・サポート実践をまとめ、本書『やってみよう！ピア・サポート』を発刊することができました。小学校から大学、教育行政、地域にいたる様々な現場で、実践を展開される際に生かしていただければと願っています。

本書は、温かいメッセージを寄せていただいた海外の先生方、実践報告やコラムを寄せていただいた皆さん、実践報告へのコメントを書いていた皆さん、そして、ほんの森出版の皆さん方のご尽力で発刊することができました。心から感謝申し上げます。

2011年9月

日本ピア・サポート学会研究調査委員長 立命館大学教授 **春日井 敏之**